

気温も暖かくなり、確実に夏に向かって時が進んでいます。しかし、日本のように真夏日ではなく、深夜には0度近くまで気温が下がることもありました。帰国する日も近くなり、寂しいようなうれしいようなという非常に複雑な心境です。期末試験および、帰国準備に追われて忙殺される日々が続いています。今回の報告書では3月、4月合併で、今学期に受講した授業の内容および、総括を述べたいと思います。

### 《 今月の履修科目内容について 》

#### ESL 500 ( English Oral Communication and Presentation )

今学期に受講した授業の中では非常に充実した授業だったと思います。ここでの授業の内容が社会に出た場合に一番役立つような気がした授業でした。英語での論文の書き方、ディスカッション、およびプレゼンテーションを重点に置き学んで来ました。また、クラスメイトにも恵まれ、自分が受講している他の科目（ECE491）を教えてくれたり、晩飯をご馳走してくれたり非常に恵まれていたと思います。ESLの授業は面倒だと思う人も多いそうですが、お互い第2言語で話す留学生にとっては他の授業に比べて面白く、英語初心者の我々にとっては良い授業システムだと思いました。

#### KOL202 ( Korean Language class )

この講義は韓国語を学ぶ講義です。この授業を受講した理由は韓国人の友達が多いという単純な理由で受講したのですが、毎日授業があるため、ハングル語が習慣のようになってしまいました。この授業の成果としては、ハングル語自体はすべて読むことができます。辞書があれば、ハングル語の本は翻訳出来るでしょう。会話の方は、旅行に行った時に困らない程度であると思われれます。まさかアメリカに来て、第3言語を学ぶとは思ってもありませんでした。毎日授業が在るという点を除けば、非常に楽しいクラスですので、次回から派遣留学に来られる方には第三言語のクラスを取ることをお勧めします。

#### ECE491 / CS450 ( Introduction to Numerical Analysis )

この講義は、数値解析の基礎から学んでいくという授業です。今学期はこの授業が一番ハードな授業でした。とにかく宿題の量が多く、特にプログラムの作成という厄介な宿題まで含まれています。このため多くの時間をこの授業に費やしたのが現状です。しかも、Introductionと書いてある割には全くそのような感じではなく、博士課程向けの授業ですので、完全な専門内容でした。そのため理解することが難しく、友人やコンピュータサイエンスの博士課程の人（ESL500で一緒に授業を取っている）に助けをもらう状態でした。ちなみに、この授業はコンピュータサイエンス学科の授業に属しており、コンピュータサイエンスの部門は全米で1、2を争うレベルだそうです。（ちなみに工学部全体での2006年度US News全米ランキングは4位）従って、このようなレベルの高い授業を受けられることは、まず日本ではありえないと思います。本学の情報学科および、コンピュータに関することを学んでいる人達は、是非この留学プログラムを利用して受けてみることを薦めたいと思います。

#### AE410 ( Computational Aerodynamics )

この講義はコンピュータ流体解析（CFD）をトピックとした講義です。3月前半まではこのクラスを聴講生として取っていましたが、日本で習ったことと同じ内容が続き（金沢大学で受講した授業の内容とほとんど同じ）目新しいことも感じず、またECE491の授業の方が忙しかったので、この授業をドロップしました。

### 全米学生バスケットボールトーナメント

イリノイ大学は今年創立100周年だそうです、その記念すべき年にイリノイ大学バスケットボールチームが全米学生トーナメントで決勝まで勝ち進みました。過去、1997年にベスト4まで勝ち進んだことがあるそうですが、決勝戦は初めてだったそうです。そのため、街中はお祭り騒ぎでした。（もちろん警察は出動していました。）私も、準決勝までの試合を、近くのスポーツ・バーでビール片手に観戦していました。準決勝まで進んだ時には、教授たちも観戦したいがため、休講されるクラスも多く昼間から異様な盛り上がり方を見せていました。私も準決勝当日は、友達とバーで観戦しました。混雑が予想されると思い早めに行ったのですが、試合開始が5時にも関わらず、バーの前には長蛇の列（ちなみに午後1時に行きました）、なんとか入ることが出来、試合が終わり決勝まで進んだ時には見ず知らずの人達と盛り上がり喜んでいました。

決勝戦当日は大学のアリーナが無料開放され、大型スクリーンで観戦できるということを知ったので皆で行きました。もちろんイリノイ大学のスクールカラー・オレンジ色のTシャツを購入し着て行きました。アリーナは1万人近いオレンジのTシャツを着た学生で埋め尽くされ、すごい盛り上がり方でした。しかし皆の応援も届かず、試合の結果は75-70でノースカロライナ大学（マイケル・ジョーダンの出身校）に惜敗してしまいました。

初めはあまり興味が無かったバスケットボールでしたが、大学を挙げての応援は非常に楽しかったです。日本の大学ではスポーツで大学自体を応援するということがめったに無いので、このような楽しい思いをすることが出来た自分は非常に幸運だったと思います。

### 日本通のアメリカ人・アジア人

イリノイ大学はアメリカのほかの地域に比べて日本人が少なく、他のアジア人達が多いというのが特徴的でした。しかし以外にも日本通の人達が多く、ちょっとした驚きでした。聞いたところによると、日本語を教えるクラスは履修希望者が多く、履修申請期間の初日に行わないと履修できない状況であり、また私が秋学期に履修した『Japanese Culture』なるクラスは毎学期授業が行われ、このクラスも大人気だそうです。また、大学構内の地下食堂にも寿司やうどんが売られていたりするなど、以外にも日本の物や日本文化が浸透しているという感じを受けました。

（学校近くの日本食レストランは良くなかったですけど...）

さらには、もう一人の派遣留学生橋本君のルームメイトおよび2年前の金沢工大夏季留学プログラムで訪れていた学生が、シカゴで開かれていた『シカゴ総領事館日本語弁論大会』に参加していました。意外にも多くの人達が参加しており、橋本君のルームメイトは最優秀賞を受賞しました。

このように、アメリカ中部の学校としてはアジア文化が多く広まっている学校ですので、我々アジア人にとっては非常に住みやすい地域ではないかなと感じられます。次回の派遣留学生の方も創めることが出来ると思います。

### 1年間の留学を振り返ってみて

一言でこの1年間を表すとすると、『あつという間』という言葉で表すことが出来ます。帰国が近づくにつれ、来た当初のことが懐かしく感じられる今日この頃です。来た当初は不安も多く、1年間やっていけるかどうか自信が曖昧でした。しかし、このプログラムを通して、様々なことを学び、日本では出来ないような経験もすることが出来ました。このような経験は中々出来るものではないと思うので、アメリカに派遣してくれた学校および経済面で援助してくれた両親に感謝したいと思います。詳細については帰国報告会で詳しく話したいと思います。